

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成26年1月13日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 情報学研究科 社会情報学専攻

職 名・学 年 修士課程2年

氏 名 松 尾 侑 紀

助 成 の 種 類	平成25年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	第20回国際海棲哺乳動物学会		
発 表 題 目	Cyclic change of dugong's vocal behavior		
開 催 場 所	オタゴ大学(ダニーデン・ニュージーランド)		
渡 航 期 間	平成25年12月 6日 ~ 平成25年12月15日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200,000 円	
	使用した助成金額	200,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	渡航費	15万円
		滞在費	4万円
シンポジウム参加費		1万円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団の助成を受けたことで、助成金なしでは参加することができなかった学会に参加し、非常に貴重な経験を得ることができました。厚く御礼申し上げます。 今後もぜひ多くの学生に助成をいただき、研究者としてのスキルアップをご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願い致します。		

第 20 回国際海棲哺乳動物学会 成果の概要

京都大学大学院情報学研究科 社会情報学専攻 生物圏情報学講座
修士課程 2 年 松尾 侑紀

第 20 回国際海棲哺乳動物学会は、世界各地の 30 カ国以上の国々から 1000 人以上もの研究者が参加し、311 件の口頭発表、400 件以上のポスター発表を含め、計 750 件以上の発表が 5 日間にわたって行われる、非常に大規模な学会であった。私はこれまで日本水産学会、海洋理工学会、SEASTAR2000 に参加したが、これらはすべて国内で行われた学会であり、私にとっては本学会が初めての海外で行われる学会への参加であった。学会のシステムや催されるイベント、発表の場の雰囲気などは日本の学会とは大きく異なり、とても新鮮に感じた。たとえば夜にはバンケットやダンスパーティーが催され、発表の合間にはコーヒーや軽食が提供されるブリークタイムと、他の研究者と食事をともにし、会話を楽しむ多くの機会が設けられていた。私はそれらのイベントに積極的に参加し、多くの研究者との交流を深めることができた。

本学会開催中には、多くの有意義な経験を得た。まず、学生のためのワークショップに参加した。このワークショップでははじめに、当学会の会長であり、ジュゴン研究の権威でもあるヘレン・マーシュ氏のご講演があり、研究者としてもつべき心構えや気を配るべき点についてなど多くのお話を聴かせていただいた。通常の学会では研究内容についての話を聴く機会は多いが、「研究者」であること自体についての話を聴く機会はほとんどない。本シンポジウムに参加することで、他では聴くことができない非常に貴重なお話を聞くことができた。また、講演後には個人的にマーシュ氏にお声をかけさせていただいた。分不相応な振る舞いのように非常に勇気を要したが、ジュゴン研究の「大御所」の方と面と向かってお話することができた。有名な研究者と接する機会が多いであろうマーシュ氏に覚えておいてもらえる可能性は極めて低いかもしれないが、重要な人脈を作るための第一歩となったと考えている。

全員が集まっての集会が終わった後は、グループでの議論の時間が設けられていた。いくつか用意されているテーマの中から自分の興味のある 3 つのテーマを選び、ベテランの研究者の方をリーダーとして、同じテーマを選んだ学生たちと議論を交わした。私は自分の研究に深く関わる「行動」「音響」「生理」の 3 つをテーマとして選んだ。単に自分の発表をするだけでは関わるができなかったであろう多くの学生たちと活発な議論を交わし、また、それぞれの分野に秀でた研究者の方ともお話をさせていただくことで、自分の知識と考えをよりいっそう深めることができた。

自身の研究については、「ジュゴンの発声行動の周期性」というタイトルでのポスター発表を行った。海外の多くの研究者から意見をもらい、議論を交わした。国外での初めての英語での発表を非常に大規模な学会で行うという非常に有意義な経験を積み、英語で発表することについての自信も得ることができた。また、講演後にお声をかけさせていただいたことを覚えていてくださったマーシュ氏が発表を見に来てくださった。ポスターについてご意見をいただくことができ、とても有意義でかつ嬉しい経験となった。

学会中には、自分の研究との関わりの大小に関わらず、興味深い様々な研究発表を聴講した。私は現在ジュゴンを対象として研究を行っているが、ゆくゆくは発声行動を中心に、さまざまな海産哺乳類種についての研究に携わっていきたいと考えている。本学会ではジュゴンはもちろん、ジュゴンの近縁種であるマナティーや鯨類、鯨脚類、さらにはラッコやホッキョクグマなど、多種多様な動物についての発表を聴くことで、将来の研究において役立つであろう多くの情報を得ることができた。また、分野についても、社会構造や分布をはじめ、解剖学や系統学、分類学、保護政策や漁業についてなど多種多様な分野に関わる発表を聴き、これまで関わることのなかったさまざまな分野における知識を得るとともに、これからの研究の可能性の幅を広げることができたと感じている。

さらに、学会期間中には、学会以外でも国外の研究者との交流の機会を得ることができた。特に、ジュゴン・マナティーの研究者が集まって夕食を共にする場に参加させていただくことができたのは、非常に貴重な経験となった。私のアドバイザーである市川氏を含め、この集まりにはさまざまな国から来たジュゴンおよびマナティーの研究者が参加していた。また、学生からジュゴン研究の権威まで、年齢や研究経験の長さもさまざまであった。インフォーマルな食事の場ならではのリラックスした雰囲気の中で、研究内容についての議論を交わすのはもちろん研究に関係のないことについての会話も楽しみ、ジュゴン研究に関わる人々との幅広い人脈を築くことができた。

本学会に参加し、このような貴重な機会を得ることができたのは、貴公益財団法人京都大学教育研究振興財団の国際研究集会発表助成を受けることができたおかげである。貴財団のご支援に、厚く御礼申し上げます。